

## 房州びわについて

### 1 房州びわ栽培の歴史

本県におけるびわ栽培は、宝暦元年（1751年）頃に始められたと言われており、270年以上の歴史を有しています。

千葉県びわ共進会は、歴史と伝統のある本県産びわの品質向上と消費拡大を目的に、昭和40年から実施し、およそ4年に1度で開催され、今回で15回目となります。

皇室への献上は、明治42年（1909年）6月20日に安房郡富浦村南無谷（現南房総市富浦町南無谷）木村兼吉氏らによって始められ、今年で110回目となります。

※第二次世界大戦中の一時期、三笠宮寛仁さまの葬儀に当たる「斂葬の儀」が行われた平成24年、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で令和2年及び3年は行われておりません。

### 2 県内における栽培状況（令和7年産）

|        |                            |
|--------|----------------------------|
| 結果樹面積  | 114ha                      |
| 生産量    | 417t                       |
| 産出額    | 7億円（令和6年産）                 |
| 主な県内産地 | 南房総市、館山市、鋸南町               |
| 栽培農家数  | 291戸                       |
| 主な品種   | （温室）富房、瑞穂（露地）大房、田中         |
| 出荷時期   | （温室）4月中旬～5月下旬（露地）5月下旬～6月下旬 |

資料：「果樹生産出荷統計」「生産農業所得統計」

### 3 結果樹面積、生産量、産出額の推移

| 年次   | 結果樹面積（ha） |     | 生産量（t） |     | 産出額（億円） |     |
|------|-----------|-----|--------|-----|---------|-----|
|      | 全国        | 千葉県 | 全国     | 千葉県 | 全国      | 千葉県 |
| 令和元年 | 1,140     | 154 | 3,430  | 547 | 34      | 7   |
| 令和2年 | 1,050     | 154 | 2,650  | 494 | 31      | 8   |
| 令和3年 | 950       | 134 | 2,890  | 444 | 31      | 7   |
| 令和4年 | 905       | 131 | 2,530  | 417 | 34      | 9   |
| 令和5年 | 840       | 121 | 2,310  | 469 | 30      | 7   |
| 令和6年 | 806       | 119 | 2,180  | 417 | 29      | 7   |
| 令和7年 | 763       | 114 | 2,170  | 417 |         |     |

資料：「果樹生産出荷統計」「生産農業所得統計」

#### 4 生産量及び全国順位（令和7年産）

| 順位      | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 都道府県    | 長崎  | 千葉  | 香川  | 鹿児島 | 愛媛  |
| 生産量 (t) | 668 | 417 | 154 | 153 | 139 |

資料：「果樹生産出荷統計」

#### 5 本県で栽培されている主な品種

| 品種名        | 特 性  |
|------------|--|
| おおぶさ<br>大房 | 1果70～80gと大果で、酸味が少なく、食味が良い。<br>収穫期は5月下旬～6月上旬。                   |
| たなか<br>田中  | 1果65～75gと大果で、外観が美しく、食味が良い。<br>収穫期は6月中旬～下旬。                     |
| とみふさ<br>富房 | 1果65～75gと大果で、食味が良い。<br>温室栽培の主要品種。収穫期は4月中旬～5月下旬（温室栽培）。          |
| みずほ<br>瑞穂  | 1果75～85gと極大果で、果肉がやわらかく、食味が良い。<br>また、甘味と酸味のバランスが良い。収穫期は6月中旬～下旬。 |

#### 6 本年産の生育状況

本年の露地びわは、昨年11月の平均気温が低く推移したことから、出蕾後の花房しゅつらいの発育が遅れたものの、昨年12～1月中旬の平均気温が平年より高く推移したことで、開花が進みました。それ以降も平均気温が高く推移したことから、幼果の発育も平年より早く進み、収穫期は平年よりやや早い～早いと予想されます。